

行政視察報告

委員会名	文教委員会
視察日	令和8年5月11日(月)
視察先	北海道釧路市
視察委員	秋 本 とよえ 委員長 大 高 拓 副委員長 伊藤 よしのり 委員 大 森 ゆきこ 委員 小 山 たつや 委員 下山 しんいち 委員 片 岡 ちとせ 委員 土 田 あきら 委員 大西 じゅんこ 委員 菅 野 勇 人 委員

調査項目	学びの多様化学校「市立くしろ創明学園」について
事業概要	市立くしろ創明学園は、不登校の子供たちのための「学びの多様化学校」として令和8年4月に開校した。北海道では初の公立の学びの多様化学校である。スクールビジョンは、「自分らしく安心して過ごせる場」とし、生徒たちが新たな学びの場として、安心して通うことができ、個人のペースを大切にしながら、自分らしく学ぶことができる学校を目指している。
視察内容	(1) 釧路市の不登校児童生徒の実態 令和元年度292人（小学生72人・中学生220人）から令和6年度435人（小学生131人・中学生304人）と年々増加傾向にある。 (2) 現在の不登校児童生徒への対策 ・釧路市こども家庭支援センターとの連携 ・釧路市教育支援センター（まなびや）の開設 市内2か所 ・不登校対応コーディネーターの全校での位置づけ ・校内教育支援センターを全校で開設 (3) 学びの多様化学校「くしろ創明学園」開校までの経緯 令和5年3月策定の教育推進計画に不登校特例校設置の検討を明記 令和5年度～6年度 他自治体への視察、道教委・文科省との協議、申請書提出 令和7年度 学びの多様化学校準備係設置（4月） 検討委員会3回開催（6・7・8月） 保護者説明会、個別相談、申込受付開始（10月） 教育委員会面談、審査会、決定通知発送、入学者説明会（12～3月） 令和8年3月26日 文部科学省から指定決定 4月8日 開校式・転入学式 (4) 設置形態等 分校型の学びの多様化学校 本校：北中学校 場所：中央小学校の3階の一部 登校：徒歩、バス、JR、保護者送迎 (5) 対象となる生徒の範囲 ・釧路市在住の中学1年から中学3年までの生徒 ・年間30日以上もしくは、不登校傾向にあると認められる者 ・生徒が本校の特色ある教育課程に対して魅力を感じ、保護者の理解も確認できること (6) 生徒・教職員数 生徒22名（1年4名・2年7名・3年11名）定数：各学年15名 教頭1名、一般教諭9名、養護教諭1名、事務職員1名 スクールカウンセラー 週4日（3名体制） (7) 特別的教育課程の編成 ・年間総授業時数1,015時間を850時間に削減 ・1単位あたりの授業時間を50分から45分に短縮 ・登校時間を遅らせる（9時15分登校） ・特色ある教科を2教科新設「体験と探求」、「ソーシャルの時間」
主な質疑内容	(問)入学希望者の選考はどのように行ったのか。 (答)対象生徒にとって適切な支援は何なのかを判断するため、教育委員会の指導主事や認定心理士資格を持つ職員が、生徒へのストレスチェックを行ったうえで、本人と保護者に面談を行い、決定した。 (問)教員の資格・経験等は特別なものが必要か。 (答)校長、教頭、一般教員含めて普通の人事異動で配置されており、特別な資格・経験は設けていない。 (問)現時点での課題・評価について伺う。 (答)配置された教員は一般の学校から異動してきたため、生徒への接し方や心構えの面で少し大変さがあるように見受けられる。また、一般校とは異なる教育課程をどう実践して、後進に繋いでいけるかが課題として挙げられる。評価については、4月の出席率が8割程度となっており、不登校であった生徒達であることを考慮すれば、これは評価できる点なのではないか。

行政視察報告

委員会名	文教委員会
視察日	令和8年5月12日(火)
視察先	北海道釧路市
視察委員	秋 本 とよえ 委員長 大 高 拓 副委員長 伊藤 よしのり 委員 大 森 ゆきこ 委員 小 山 たつや 委員 下山 しんいち 委員 片 岡 ちとせ 委員 土 田 あきら 委員 大西 じゅんこ 委員 菅 野 勇 人 委員

調査項目	あすなろ会こども遊学館について
事業概要	釧路市こども遊学館は、科学知識の普及啓発を図るとともに、次代を担う子どもたちが、五感を通じた遊び、学びなどの多くの体験から、豊かな感性、創造力、知的好奇心を高め、また、各世代の人々が子どもたちのために協働し、互いの交流を深め、地域文化の発展に寄与することを目的に平成17年に建設された。令和7年度からネーミングライツにより愛称を「あすなろ会こども遊学館」としている。
視察内容	(1) 施設概要 開館：平成17年7月 構造・規模：鉄骨造、地上5階建、延床面積5,883.92㎡ 1階：さんさんひろば、あそびらんど、視聴覚室、会議室等 2階：スタッフルーム等 3階：ふしぎらんど、プラネタリウムスターエッグ等 4階：ものしりらんど、創作工房、実験工房等 5階：編集室等 開館時間：9:30～17:00 休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始 入館料：小・中学生120円、高校生240円、大学生・一般600円 プラネタリウム観覧は別料金 (2) 令和6年度入館者数 82,829人（開館日数313日）、プラネタリウム利用数14,624人 (3) 指定管理者 特定非営利活動法人こども遊学館市民ステージ 指定期間：令和4年4月～令和9年3月 職員数：正職員9名、契約6名、臨時3名、パート6名 (4) ボランティア登録（令和7年6月末現在） 一般74名：工作下準備、工作指導、イベントサポート等 専門111名：工作教室・実験教室サポート、おはなし会実施等 サポーター16団体：イベント運営協力、ボランティア支援等 (5) 令和6年度管理運営費（単位：千円） ・指定管理費135,402 主内訳：人件費73,285、建物維持管理費30,255、光熱水費19,542 事業費12,442 ・利用料金収入19,562 ・市費18,445 (6) 施設での取組事業（令和6年度） GWイベント、サイエンスショー、プラネタリウム投影、工作遊び、伝承遊び等 開催総数：7,343回（前年度545回増） 参加総数：92,513人（前年度6,710人増）
主な質疑内容	(問)施設の法的位置づけについて教えてほしい。 (答)会教育施設として位置づけられており、博物館に相当する施設である。 (問)現在の課題について伺う。 (答)遊学館の利用者層である乳幼児・未就学児の人口が10年前と比較して半減していることと、国の施策により地域内に幼保関連施設が充実したことで、来館者数がコロナ禍以前までに回復していない。また、ボランティアの高齢化と施設設備・展示機器の老朽化が課題となっている。 (問)今後の方向性について検討していることはあるか。 (答)多世代利用を促進するため、シニア層を意識したイベント等の企画運営や子育て部局との連携を図っていく。また、補助・助成制度やクラウドファンディング等の活用も想定した実現可能な施設設備計画を策定する。

行政視察報告

委員会名	文教委員会
視察日	令和8年5月13日(水)
視察先	北海道網走市
視察委員	秋 本 とよえ 委員長 大 高 拓 副委員長 伊藤 よしのり 委員 大 森 ゆきこ 委員 小 山 たつや 委員 下山 しんいち 委員 片 岡 ちとせ 委員 土 田 あきら 委員 大西 じゅんこ 委員 菅 野 勇 人 委員
調査項目	網走市における文化財保護行政について
事業概要	網走市における文化財保護行政の現状と課題について、説明を受けるとともに、北の海に生きたモヨロの人びとの暮らしを、「住居」「墓」「貝塚」のテーマごとに展示・紹介している「モヨロ貝塚館」を見学する。
視察内容	(1) 条例 網走市文化財保護条例（昭和52年公布） (2) 担当部署 教育委員会 社会教育部 博物館（博物館業務の兼務） (3) 網走市の主な文化財 ・市指定文化財4件 永専寺山門ほか ・国指定文化財3件 桂ヶ岡砦跡、最寄貝塚、天都山 ・国重要文化財2件 旧網走監獄、旧網走刑務所二見ヶ岡刑務支所 ・国登録有形文化財8件 網走監獄煉瓦造独居房、市立郷土博物館本館ほか ・埋蔵文化財168件 集落跡、貝塚、墳墓など (4) 網走市立郷土博物館分館「モヨロ貝塚館」 ① 展示内容 ・貝塚展示室…海の動物など氷海の狩人・モヨロ人の食料を展示 ・墓展示室…頭に土器をかぶせる独特な埋葬方法を紹介 ・墓域展示室…墓地の様子を発掘された状態で復元 ・復元住居…再現された住居に入り、当時の家の大きさを体感できる ・映像コーナー…モヨロ貝塚の暮らしを映像やジオラマ模型で紹介 ② 利用案内 ・開館時間：午前9時～午後5時 ・休館日：月曜日・祝日、年末年始 ・入館料：大人300円、高校・大学生200円、小中学生100円
主な質疑内容	(問) 全国的な課題となっている収蔵庫不足について、網走市における状況はどうか。 (答) 博物館自体に収蔵庫はない。小学校や公民館の旧施設を活用しているが、すでに満杯に近い状況にある。 (問) 今後、収蔵品を廃棄する方向性の検討はされているか。 (答) 現在は網走に関連する資料に限定し受け入れており、保管等の取扱いには博物館に一任してさせていただいているが、今のところ廃棄した例は無く、明文化したものも無い。 (問) 学芸員の配置状況と今後の方向性はどうか。 (答) 正職員2名と会計年度任用職員1名。専門職ではなく、一般事務職として有資格者が配属されている。市役所の人員不足の状況から、博物館への補充・新規採用は見込めない見通しである。